

12 校内実習と病院実習との接点をいかに 見出すかの一試案

－ 食事介助の実習から －

高知中央高等学校

山崎美恵子

○ はじめに

高等学校学習指導要領「看護編」が昭和45年10月15日に文部省告示第281号をもって公示された。教科の目標は、第1項に基本的役割を表わす総括的目標を掲げ、第2項には看護技術の習得の立場から、第3項に看護者の社会的立場からそれぞれの具体的な目標が示されているが、実習病院と学校と完全に独立した立場から、第2項の目標を習得さし、効果あらしめるか、即ち、校内実習と病院実習との関連づけ、その接点をもとめることが、中学卒業後、一般教養科目を履修しはじめたばかりの16才の高校生には、ともすれば理解されないまま、ペーパーテストの得点をもって評価する危険性がある。看護技術習得の効果を上げるために校内実習した結果を病院実習に結びつけらすために「食事介助」の実習をとうして得た一方法を報告する。

○ 教科の組織と校内実習の単位数

表1に示すように指導要領には標準単位数が示されている。一般教養科目の単位数とのバランスをとりながら本校の単位数を記しているが、その中で、看護実習については指導要領の中に校内実習と病院実習によって指導し、校内実習においては、看護技術の基本を正確に習得させ、病院実習においては、校内実習において習得した看護技術を医療の実際の場合において応用実践させるとある。両者の時間配分については学校の施設、設備、教員組織や指導体制、実習病院の規模、内容などの教育的条件および学習効果を十分に考慮してきめると示されている。その結果本校では、校内実習16単位、うち基礎看護実習を6単位とし、病院実習を7単位としている。

○ 学習効果をあげるために本校の配慮している点

- ① 1クラス50名を3班学習している。
- ② 1班に1教員がつく。
- ③ 1ベットに2名の生徒で実習させ患者と看護婦の立場を経験させている。
- ④ 学年配分と講義と校内実習との時間配分は表2、表3のとおりである。

○ 「食事介助」校内実習の指導方法

- ① 家庭から昼食のお弁当を持ってこさせた。
- ② 配膳できるように角膳・どんぶり・西洋皿・汁椀・吸のみ・コップ・ストローは学校で準備した。
- ③ 1ベットに2名の生徒をつかし、患者と看護婦を経験させた。
- ④ 9ベットを1教員が指導した。
- ⑤ 食事に関する理論学習は表3に示すように前もって2時間の講義をし、実習時間は3時間をとっている。
- ⑥ 使用教科書はメジカルフレンド社の最新看護学入門である。
- ⑦ 実習終了後具体的に感想と実験記録を提出させた。

○ 校内実習と病院実習との接点を見出す資料

「自分で食べれない患者で食べさせてもらった場合 どんなことを感じたか」、「ベット上で左側臥位で自分で食べた場合、どんなことを感じたか」この2点について、実習後の感想を頭に浮んだ順に2つ、50名の生徒に書かした。又、患者20名（実習病院にて）から生徒と同じように感想を聞いた。その結果が表4・表5である。

感想内容については生徒も患者も全く同じであった。訴え度の高い低いは、両者に多少の差はあるが、生徒に患者の立場を理解させることはある程度まで可能である。つまり、校内実習である程度まで、病院実習で得る学習効果まで近づき得ると考えられる。

○ 実験実習

2つの実習から得た感想内容から、接点を得れることを前提に次の実習をした。

- ① 少しでも安楽で満足して食べられる為の工夫
 - ② 流動食を与える場合、吸い飲みでの与え方
 - ③ ゆっくり少しづつ与える工夫
 - ④ スプーン、はしが歯や歯肉にあたったらどんな感じがするか
 - ⑤ 目の見えない患者に説明して与えなかったらどんな感じがするか。（教科書に手術はあっても、その具体的方法や患者の心理状態は全々ふれられていないので、病院実習で経験しながら自分のものにするしかないのである。）
- 実験実習の結果は表6・7・8・9・10・11・12の通りである。患者に食事を与える看護婦の心構えは患者は、口を開けることの恥しさ、看護婦にすまないという気持があることをまず考えながら、ゆっくり、うめぼし大の量を、歯や歯肉にあてないで、患者に何が食べたいかを聞きながら、お茶はゆっくり、1・2・3と教える程度に吸い飲みを口からはずしてやることで、「食欲がわからない」31%を少しでも解消するための援助ができるであろう。

自分で食べれる患者の場合には、左手の位置、足の位置、背中に何をおくと安楽に食べれることができるかの工夫の結果を心得えて患者に助言してやることと寝具、寝衣を汚しはしないかという患者の不安をのぞくように努力してやることで「食欲がわからない」26%を少しでも解消することが

できるであろう。

○ お わ り に

生徒がお互に患者になりあって食事介助の校内実習したことから得た「ごはんの量・順序・速度が自分とあわない」「食べた感じがしない」「はしが歯にあたって気持ちがわるい」「口の中が見えるので恥ずかしい」と生徒の感想と患者の感想が一致したことから、出来る限り基礎看護実習の項目を生徒が患者になりあって、体験することは、両者の接点をもとめるような指導案のたて方の工夫で、学習効果を上げ、又、教科書に書いてある事以外の看護技術の工夫が、患者をより安楽に援助することにも役立つと考える。

病院実習においては、特殊な状態の患者に援助することを経験させるような病院実習経験録を考えること。

短期間の病院実習期間を教育効果を上げるように 校内実習から病院実習へと学習展開していくよう、その接点をなるべく学校で見出すように教案作成することが大切であると考ええる。

○ 参 考 文 献

- ① 高等学校学習指導要領解説（文部省）
- ② 看護研究 1975. 8（医学書院）
- ③ 看護教育 1975—10（医学書院）

表 1 教科の組織と校内実習の単位数

科 目	標準単位数	本校の単位数
看護概説	2－4	2
看護基礎医学	4－8	5
成人看護	6－12	9
母子看護	2－4	2
看護実習	20－27	校内実習 16
		病院実習 7

表 2 基礎看護の学年配分

学 期 学 年	前 期	後 期
	4月～9月	10月～3月
1年	3単位	3単位
2年	3	2
3年		1

表 3 基礎看護の講義と実習の時間配分

学年と講義・実習の別 項 目	1年講義	1年実習	学年と講義・実習の別 項 目	2年講義	2年実習
環 境	3	6	包 帯	3	6
安全と感染防止	2	6	浣 腸	3	6
入退院の看護	1		電 法	3	6
清 潔	3	6	与 薬	2	2
治療看護上に使う物品の種類と取り扱い方	3	6	経管栄養法	2	2
栄養と食事	2	3	洗浄穿刺	2	2
危篤時の看護	1	3	吸 入	2	2
運動と休息安楽	3	6	輸 血	2	2
排 泄	3	6	T. P. R の測定	2	2
治療の介助	3	6	吸 引	2	2
身体の計測	3	6	導 尿	2	2
			B P 測定	2	2

表 4 自分で食べられない患者で食べさせてもらった場合どんな事を感じたか。

生徒 (50名)					感想 内 容	患者 (20名)				
50	40	30	20	10%		10%	20	30	40	50
				13	ごはんの量・順序・速度が 自分とあわない					45
				(13)						(18)
				31	食べた感じがしない					17.5
				(31)						(7)
				2	はしが歯にあたって気持ち がわるかった					5.0
				(2)						(2)
				12	看護婦にわるいと思った					7.5
				(12)						(3)
				18	口の中が見えるので恥かし いと思った。					2.2
				(18)						(1)
				6	自分がみじめであった					22.5
				(6)						(9)
				9	不安感が高まる					
				(9)						
				1	好き嫌いのわがままがいえ ない					
				(1)						
				1	こぼしそうで気が気でない					
				(1)						
				1	子供の頃を思い出した					
				(1)						
				6	無 回 答					
				(6)						

表 5 ベット上で左側臥位で自分で食べた場合どんな事を感じたか。

生徒 (50名)					感想 内 容	患者 (20名)				
50	40	30	20	10%		10%	20	30	40	50
				34	おはしで食べにくかった					47.5
				(34)						(19)
				26	食欲がわかなかった					7.5
				(26)						(3)
				15	寝衣・寝具を汚しそうであ った					27.5
				(15)						(11)
				12	のどにつまりそうで不安で あった					17.5
				(12)						(7)
				3	早く病気が治りたい 病気だからしかたがない					
				(3)						
				3	思ったより楽に食べれた					
				(3)						

表 6 吸い飲を口に入れてどれくらいで離すか

時 間	人 数	％
ゆっくり 1. 2. と数える 秒	22	44.0
ゆっくり 1. 2. 3. と数える 秒	24	48.0
ゆっくり 1. 2. 3. 4. と数える 秒	3	6.0
ゆっくり 1. 2. 3. 4. 5. と数える 秒	1	2.0

表 7 歯や歯肉にスプーン・はしがあたると、どんな感じがするか

感想内容	人 数	％
気持ちがおちつかなくて食べる気がしない	29	58.0
無理におしこまれているようでこわい	10	20.0
圧迫感があって口に入った感じがしない	5	10.0
看護婦がいやいや食べさせてくれているのではないかと思う	6	12.0

表 8 1 回のごはんの量

量	人 数	％
うめぼし大	37	74.0
くるみ大	7	14.0
ぎんなん大	6	12.0

表 9 目をつむって食べさせてもらうと、どんな感じがするか

感想内容	人 数	％
いつ何ができるか不安である	35	70.0
こわくて食欲がなくなる	6	12.0
気持ちがわるくてドキドキする	4	8.0
口をあけるタイミングがあわない	2	4.0
食べた感じがしない	1	2.0
腹がたつ	1	2.0
怒りたくなる	1	2.0

表 10 左側臥位で自分で食べる時左手はどこにおくと安楽か

位 置	人 数	％
胸部又は右腋窩におく	21	27.2
側 頭 部	9	11.6
そのまま体側にのばす	19	24.6
腹部と胸部の間	3	3.8
腹 部	25	32.5

表 11 左側臥位で自分で食べる時背部に何かおくと安楽か

	人 数	％
もたれるものをおいた方がよい	70	90.9
もたれるものをおかない方がよい	7	9

表 1 2 左側臥位で自分で食べる時、足はどうしたら安楽か

て曲げる方が楽である 52 (67.5%) 両方の下肢をくっつけ			人 数	%	
		45°で曲げる	12	23.0	
		60° "	8	15.3	
		90° "	18	34.6	
		100° "	4	7.6	
		120° "	5	9.6	
		170° "	5	9.6	
方が楽である 左右の下肢を離して曲げた 25 (32.5%)	左下肢の角度 8 (32%)	右下肢の角度	人 数	%	
		45°	180°	2	8.0
		60°	90°	1	4.0
	左下肢の角度 17 (68%)	右下肢の角度	人 数	%	
		90°	120°	5	20.0
		180°	90°	4	16.0
		180°	120°	1	4.0
		170°	100°	1	4.0
		120°	90°	9	17.3
		100°	50°	2	8.0